

項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
議題1 令和2年度の博物館活動について 議題2 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 令和2年度取組状況について			
	博物館の求心力維持のために一番大事なのは研究力。こんなときだからこそ、ご自身の研究に目を向けるチャンスとして使っていたきたい。	(参考意見として承りました。)	在宅勤務の特別措置延長に伴い、その機会に研究専念日を取って研究を推進するよう声かけをした。
	ストレッチャータイプの方の視点で展示が確認できるというのは非常にありがたい配慮ができています。	(感想として承りました。)	-
	(新型コロナで)休校(園)中「おうちミュージアム」に世話になった。「おうちミュージアム」が始まったのが早くとても助かった。	(感想として承りました。)	-
	オープンチャシのイラストは、周囲のお母さんやお子さんにすごく人気があり、評判がよかった。	(感想として承りました。)	-
	(特にUD対応について)交流員の事前研修をたっぷりしてほしい。「こんな工夫をしてみた」など交流員からの言葉かけがあれば、もっとすてきな博物館になると思う。	交流員の教育の改善を進めていきたい。	-
	(整理券配付時)職員以外のスタッフの増員ができなかったか。(いつもつながりのある大学生や博物館の役に立つことならするよという人などに声かけてやってもらうなど)	(参考意見として承りました。)	-
	(危機管理)UDは終わりなき改善。聞こえない方のためのパトライトの設置はとても喜ばしいこと。	(参考意見として承りました。)	-
	(危機管理)「もしサガ滋賀」の案内の位置を入口の入ったところではなく、待っている間にしてもらうようにすべき。	改善したい。	「もしサガ滋賀」の案内を正面玄関の外に設置。
	予約について、電話やFAXでの予約はできないのであれば、視覚障害者はできない。障害のあるなしに関わらず、いろいろな方法で誰もがアクセスしやすいことが大切なので、改善してほしい。	改善したい。	電話で相談できるよう改善。

	項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
議題1 議題2		学校団体利用について、9月以降の状況について、教えてほしい。	再開してから学校団体の予約は多くなっている。特に県内小学校については、4月からの累計においても11月末時点で、昨年度に比べ13校588人増加している。1学期に行けなかった校外学習を2学期、3学期にずらしていることが理由である。体験学習については、1日1校で、人数が多い場合、時間を分けるなどして、3密を避け、感染防止対策を講じながら行っている。	—
		琵琶湖博物館のユーチューブチャンネルをユーチューブ上で検索したが、一番上に出てこない。アクセス数が増えるようにSNSのリンクをシェアしてはどうか。(ユーチューブのリンクを各SNSに貼る。)	参考にさせていただく。	—
		「おうちミュージアム」で、動物のリアルな感じに、子どもはびっくりしたこととプリンタの使用量ももったいなくて、このサイトをやめようと思ってしまったことがあった。レポートのアクセス数がどれくらいあるのかと気になった。	—	「おうちミュージアム」のような取組は、今後も継続的に続けていきたいので、参考とさせていただきたい。
		楽しんで拝見しているが、子連れ(ベビーカー)だと大変。一回一回だっこして見せておろしているのが現状。	(参考意見として承りました。)	—
		行動計画表の達成度について、評価基準があるのか。	この達成度は、各業務がどれくらいできたかという自己評価による業務遂行の達成度として示している。	—
		「おうちミュージアム」のコンテンツをどこまで出すかは悩ましい。やりすぎるともう行かなくていいじゃないかということになる。博物館の存在意義の根幹はそこに行かないと見ることができない本物があることだと思う。ページビューが伸びなくても気にしなくていい。	むしろやった方がよいと考えている。大相撲をテレビでやったら相撲人気が増したことが参考になる。 琵琶湖博物館の場合、博物館に来ているんなことを知ってもらえるのももちろんだが、その先の地域の面白さ、琵琶湖の面白さを知ってほしいということが根本にある。そのための方法として、展示やウェブや講演などいろんな方法で伝えるということがあるため、この方法もこれから非常に有効になると思う。	—
		行動計画表でコロナの影響がなさそうなところで達成度が低いところはどのような影響があるのか。「共同研究」30%、「刊行物による発信」25%など。	「共同研究」:博物館学領域の学芸員中心に、共同研究の検討をしているが、個々の研究内容を全部まとめて共同研究という形にするには少し難しいという結果となっている。個別の研究を進めながら、そこから発展して広げていくような形でやっていきたい。当初目標としていたところから若干方向をずらしながら研究を進めて成果を出せる方向に向かっていくことで達成できるように考えている。 「刊行物」:ブックレットについては、順調に刊行しているが、今年度の目標が「子ども向けの読み物を検討」となっており、その点については取り組めていないので、評価が低くなっている。	—

	項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
議題3 第三次中長期計画について				
議題3		「さらなる湖沼およびその文化の研究体制の充実」を入れておけばいい。人と物と予算の獲得をめざすということをはっきりと謳った方がいい。琵琶湖博物館は、湖と人との関わりを総合的に研究するための博物館であるから、研究体制の充実は必須であり、充実してやっていく、今後も世界レベルの湖沼研究を今後もリードしていくということをスローガンとして挙げればよい。	「さらなる研究の充実」は事業目標1のところにある。事業目標2で、研究などで重要な位置を占める資料に関して、もっと大事にして、いろんな人が使えるよう発信できるように整備したいと挙げている。	—
		看板のところに、研究をして、新たな価値を自分たちが作り出し、それを発信するという研究型の博物館であることが高々と挙げられていることが必要。		—
		事業目標2の、資料の管理体制の強化について、具体的にどういふ分野の資料が増えてきているか、また収蔵庫のスペース問題についてどのように対応されているか。	学芸員の研究分野のところを中心に標本が増えている。標本数は増えているが、既にいっぱいになっている収蔵庫もある。リニューアルが優先で置き去りにしてきた経緯もあるが、今度の計画の中では、もう一度資料を見直し、資料環境もよくしながら、できるところからやっていく。研究の進展によって生じた2次データ・3次データの対応や、従来標本でなかった分野、DNAなどをどうしていくのかも考えていきたい。	—
		事業目標5の、「より多くの人利用する博物館」について、今までのターゲット層とは違うところの接点づくりを盛り込んでいただきたい。もともと滋賀ではない移住者やその子どもたちの視点で、「琵琶湖を楽しむ」という観点で、例えばマリンスポーツなどとひもづけながら、琵琶湖を楽しみながらも、そこで何か生物と出会ったり、琵琶湖の水質問題との接点が何か作れるとよい。	(参考意見として承りました。)	—
		事業目標3で、企業との連携について、企業の研修がきっかけで、次は家族と来る、友達と来るというつながりがある中で、企業展示についても子どもさんが勉強で来られる際に見ていただけるとうれしい。	(参考意見として承りました。)	—
		学芸員の話聞く機会は面白いし、例えば魚の話で、今は水槽で見ているが、一緒に琵琶湖に見に行ってみようというフィールドワークをすれば、さらに興味を持ってもらえるきっかけとなるし、次に研究者を育てる取り組みになるのではないか。	この博物館は、博物館に来て、一通り見て終わりではなく、ここを見たら外に行きたくなって、外で何か見つけたら、ここで確かめたくなってという形で、日常的に使われる博物館になりたいというのが次の10年の目標。例えば、「おとなのディスカバリー」で標本が扱える、各展示室に地域の人たちのコーナーがあることなどは、そうしたことにつながっている。	—
		琵琶湖博物館の魅力をどういふふうに発信するかについて、琵琶湖博物館で見るものが、自分のまちにどのようにつながっているか、ここを見たら自分のところにもつながっているというつながりを見てもらえたらいい。滋賀県と琵琶湖の魅力がぎゅっと詰まったのが琵琶湖博物館。	皆さんとの協力関係があるので、琵琶湖博物館を舞台に、いろんな人が情報発信していくことでより力が出せる、いろいろ協力しながらやっていく。そういう形でフィールドへのいざないというのがもっと強化できたら、というのが事業目標3の意図となっている。	—

項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
	フィールドワークをしたときに、学芸員の人に話してもらったら、みんながきらきらしていく。来てもらったらどんなに楽しんだろうか。	地域の団体や企業、大学などからの講義や観察会の講師の依頼を受けている。依頼者のニーズに応える形で、講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。2019年度は館内60件・参加者2218名、館外72件・参加者4757名。	—
	「湖と共に生きる暮らしの中に、いつもある博物館」というキャッチフレーズについて、何かアトラティブなキャッチフレーズを。	(仮)案としており、委員の皆様にご協力いただきたい。	—
	「世界の琵琶湖になろう」という案はどうでしょうか。	—	案について検討させていただく。
	<会長まとめ>1)研究体制の充実・確立、2)資料収集(博物館しかできないミッション) 3)収蔵庫の増築も含めた充実 4)県内の博物館ネットワークとその中核という位置づけ 上記の内容が中長期計画として必要。	—	中長期計画の中で位置づけられるよう検討していく。
	船を利用して、琵琶湖を感じて琵琶湖博物館に来るという体験はすごくインパクトがあり、体験した子どもたちが大人になってからの感想を聞いている。琵琶湖を誇りに思える子どもたちに育ってほしい。	(参考意見として承りました。)	—
	収蔵品をギャラリー展示でいっしょに公開するという展示があっても面白い。	(参考意見として承りました。)	—
議題4 その他			
議題4	ILEC(国際湖沼環境委員会)との関係はどういうものか。	ILECで、JICA(国際協力機構)などによる海外研修生の受け入れの際に、研修の中で当館での見学、講演や体験などへの協力という関係がある。	—